



信頼関係は相手の立場から

協働パターン 自治会と福祉施設、学校



概要

主体者名称	緑が丘西自治会				町会設立年	2017年	
協働先	①社会福祉法人八千代翼友福祉会（以下、福祉会） ②千葉県立八千代特別支援学校（以下、特別支援学校）						
所在地	千葉県八千代市	町会加入世帯数	約 620	加入率	41.3%	町会運営メンバー	47人 平均 40歳前半
地域の状況	千葉県八千代市の新興住宅街。特別支援学校や知的障がい者施設がある。ゴミステーションの設置の必要性や、子どもの通学や遊び場等安全・安心のことを考え、そろそろ自治会が必要だろうという気運となり、2017年3月に76世帯、加入率16%でスタート。						
協働の内容	地域住民は、地域の清掃事業を知的障がい者施設と一緒にいたり、特別支援学校のプールを住民が利用したり、お互いにイベントに招待したりといった顔の見える関係づくりを行った。						

協働のきっかけ

知的障がい者施設を運営する福祉会とは、自治会長が個人的にボランティア活動を行っていたことをきっかけに緩やかな関係を築いており、また、福祉会の評議員に自治会長が就任しています。

特別支援学校とは、地域との関係構築に前向きな校長の想いと、子どもたちの安全安心を考えていた自治会がつながり、住民がプールを借りたり、生徒が授業の一環で自治会のイベントに参加したりするなど、連携の基礎を築いてきました。特別支援学校の「開かれた学校づくり委員会」にも自治会長が委員として就任しています。

回答者

緑が丘西自治会会長
すずき よしひと
鈴木 介人 さん



千葉県八千代市特別支援学校
校長
かとり たかこ
香取 聖子 さん

取組内容

福祉会とは年に2回の会議と、地域清掃事業として一緒に地域の道路の清掃を行っています。福祉会主催の「グリーンフェス」は、障がいがある方もない方も共に地域で暮らせる「共生社会」の実現や「知的障がい」についての啓もうを目的としたイベントですが、自治会の地域清掃ともコラボする形で実施しました。

また、お互いの顔を見て直接触れ合えるような活動が大切であるとの思いから、特別支援学校との清掃活動も実施しています。

協働で工夫したポイント

相手の立場を尊重することが大事であるとの思いから、できるだけ福祉会の提案を受け入れることを意識しました。お互いの求めることが異なる場合は「どのようなことならできるのか」を引き出すなど、会話を通して信頼関係を構築していくことを優先しました。コロナ禍で直接の交流は難しいのですが、地道な取り組みを続けていくことが大切だと感じています。

ふりかえり（評価）

(1) 事業の実施結果

自治会

福祉会主催「グリーンフェス」では、毎年、地域住民と一緒に活動できるよう配慮してもらっています。特別支援学校とは、防災教育について話し合いを重ね、防災協定を締結するまでに発展していきました。

特別支援学校

地域の方に障がいを「知ってもらう」ことは子どもたちにとってとても大切なこと、すべての理解の始まりと考えます。ありのままの学校と子どもたちを知ってもらうことを重視して取り組みました。現在は感染症の影響で地域との交流が進んでいかないことが残念です。

(2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
○	△	△

自治会

生徒さんにはできる範囲で最大限配慮するとともに、それぞれの障がいを理解することを意識しました。

特別支援学校

近隣公園で実施したパラスポーツのポッチャに、多くの皆さんが参加してくださいました。生徒、保護者にとって良い機会でした。

今後の展開

障がいを持つ方と接することは多くの方が慣れていません。徐々に理解し合うことが福祉会や特別支援学校との共通の目標であると認識しています。また、災害時に障がい者が避難してきた場合の対応だけでなく、普段の接し方についても私たちにはノウハウがないので、防災分野に限らず、地域清掃やポッチャといった日常の交流が大切だと感じています。

学校とは管理職の異動に伴って関係を再構築することが必要になりますが、無理に進めず、ゆったりと関係を構築していくようにしています。コロナ禍で取組が休止していても顔を合わせることはできており、良好な関係を維持しています。

活動者・参加者の声

参加者

子どもも地域をきれいにすることを実践で学ぶことができました。
(清掃活動に参加した地域住民)

参加者

地域の方々に迷惑をかけていないかととても心配でしたが、良い機会となりました。また、学校を知ってもらうという点でもとても良かったです。
(特別支援学校の保護者)